

Title	我国医薬品製造企業の製品市場戦略と成長性および財務体質における一考察
Sub Title	
Author	沢石利幸(Sawaishi, Toshiyuki) 高橋吉之助
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0085

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 澤石利幸
(エーザイ株式会社)

主査 高橋吉之助 教授

副査 伏見多美雄 教授

所属ゼミナール 柴田典男 研

柴田典男 助教授

我国医薬品製造企業の製造市場戦略と成長性

および財務体質に関する一考察

本論文は、我国医薬品製造企業の中、上場企業26社を対象とし、昭和38年から昭和53年の資料をもとに、各企業がどのような製品市場戦略を展開し、戦略の違いが企業の成長性、財務体質とどのような関連があるかを考察した。ここでは、医薬品を神経系用薬、消化器官用薬といった薬効別に一市場を形成しているとの立場をとり、これを製品市場と定義する。そして、製品市場戦略を主力製品市場の選択と、特定の製品市場への集中性との2点から分析する。また、企業の成長性は売上高で、財務体質は、現金利益、純金融負債、営業利益で測定する。

その結果、次のことが明らかとなった。第1に、医薬品市場は、疾病の構造と密接な関連がある。従って、市場の変化を捉えて、製品市場戦略を抗生物質製剤、循環器官用薬などの市場へと展開した企業の成長性は著しく、そうしない企業との間に大きな成長格差が生じた。また、多くの企業は、昭和38年から昭和53年の間に主力製品市場を変えており、特に、抗生物質製剤、神経系用薬、循環器官用薬へ変えている企業が多い。

第2に、製品市場の集中性では、分析企業の半数以上が、自社の製品市場を特定の市場に集中させず、幾つかの製品市場へ分散させた戦略をとっている。

第3に、製品市場の集中性と企業の成長性、財務体質との関連では、企業規模を大、中、小の三段階に分けて分析した。その結果、大規模グループでは、純金融負債率、現金利益率、営業利益率ともに、製品市場の集中性と強い相関を示した。つまり、集中度が高いほど、現金利益率、営業利益率は高く、純金融負債率は低い。そして、企業規模が小さいとこれらの相関は低い。一方、製品市場の集中性と企業の成長性との間には、一定の関係は見られなかった。そして、極端な集中性は、市場の選択を誤まると、むしろ企業の成長にとって阻害要因となる惧れがある。

以上のことから、財務的側面に視点を置く限り、製品市場を集中させた方が財務体質は良くなり、有利である。しかし、製品市場集中化の戦略では、市場の選択と集中の程度を考慮する必要がある。